

機械油乳剤のミカンに対する薬害および防除効果に関する検討

西野敏勝・大串龍一・\*田添昭三・\*\*川口国雄・\*\*\*松尾勝幸  
(長崎県総合農林センター)

NISHINO, T., OHGUSHI, R., TAZOE, S., KAWAGUCHI, K. and MATSUO, K.,  
Controlling Effect on citrus pests and the Injury to the  
Citrus of Machine Oil Emulsion

マシン油乳剤による落葉時期、混合マシン油による落葉と効果、更に3月の殺菌剤との関係について報告する。

試験方法および結果

試験方法は第1表に示す。落葉調査はタテ50cm, ヨコ50cm, 高さ15cmの箱を2樹に1箱ずつおいて落葉数を調べた。ミカンハダニ, サンホーゼカイガラムシ生息数は6月に, 果実害虫は9月に, それぞれの寄生状態を調べた。

第1表 各試験地における試験方法

試験地	品種, 樹令, 区制	区の種数, 散布濃度 (各地区とも共通)
大村市 果樹部	普通温州, 13年生	(1) マシン油乳剤 40倍 油分2.4%
	1区2樹4連制	(2) マシン油乳剤 80倍 油分1.2%
長崎市 芒塚町	夏橙, 25年生	(3) スケールサイド 50倍 油分1.7%
	1区4樹2連制	(4) ミカノール乳剤 50倍(長与のみ60倍) 油分1.8% エチオン
長与村 前田河内	普通温州, 10年生	マラソン ダイアジ ノン EDB
	1区3樹3連制	
多良見町 野川内	普通温州, 7年生	(5) 無散布
	1区4樹2連制	

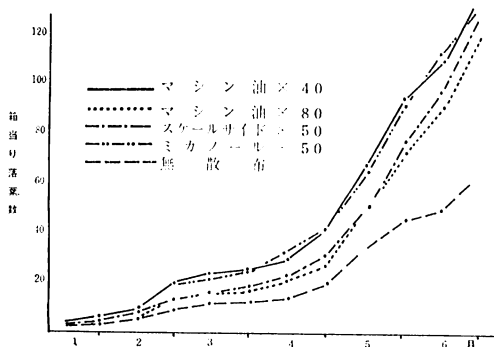
注. 散布月日, 40年12月下旬

第2表 害虫に対する防除効果

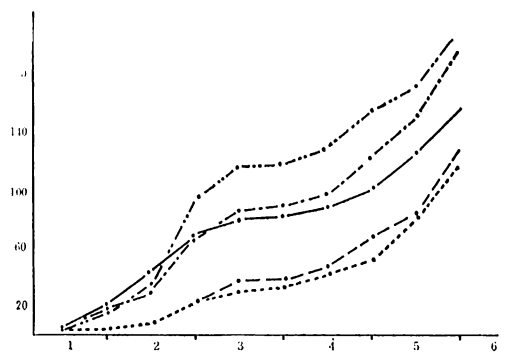
薬剤名	量	ミカンハダニ		サンホーゼカイガラムシ		アカマールカイガラムシ	
		長与村	多良見町	多良見町	長崎市	被害果率	被害指数
マシン油	× 40	幼成虫 6,137	卵, 幼成虫 148 4	果実 5.22	葉 44	15.9	4.0
マシン油	× 80	4,608	719 25	3.38	246	25.7	6.1
スケールサイド	× 50	2,166	139 0	4.53	208	8.3	2.2
ミカノール	× 50	1,137	152 8	3.67	63	16.5	3.9
無散布		19,567	363 24	16.28	1,293	29.1	11.7
備考		9 樹	8 樹	被害指数 8	樹	8	樹

$$\text{注. 被害指数} = \frac{6 \times (\text{H}) + 3 \times (\text{+}) + (\text{±})}{6 (\text{全調査果})} \times 100$$

第1図 累積落葉数(温州)大村市果樹部

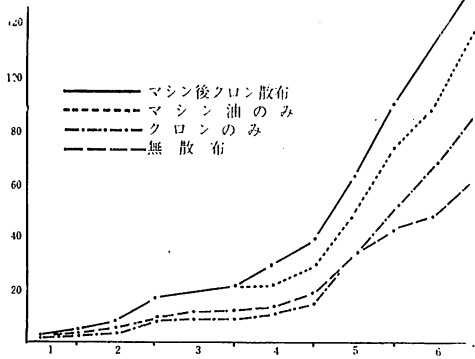


第2図 累積落葉数(夏橙)長崎市芒塚町

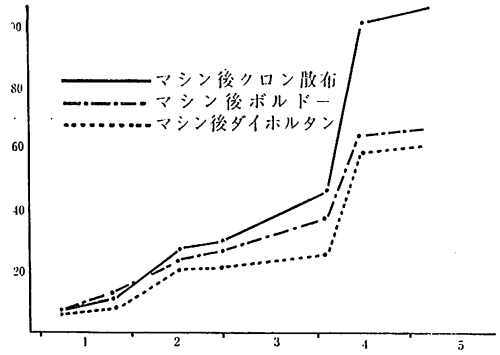


\*長崎普及所 \*\*長与農協 \*\*\*伊木力農協

第3図 マシン油とクローンの関係 大村市果樹部



第4図 3月の殺菌剤との関係 長与村



1. マシン油, 混合マシン油の3種の害虫に対する効果は顕著で, 両薬剤の差はない。
2. 混合マシン油による落葉は, 従来のマシン油に

比べて温州ではやや少なく夏橙では逆に多かつた。

3. マシン油散布と3月の各種殺菌剤散布との関係は第3図, 第4図に示すとおりである。